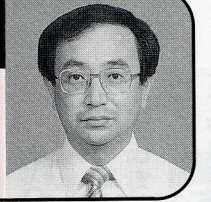
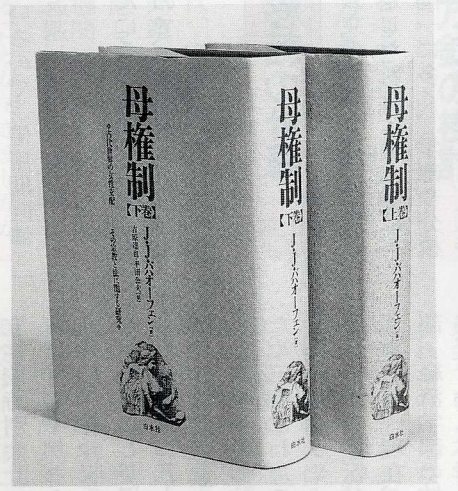


バハオーフェン 『母権制』

自著を語る②



法学部公法講座 ◆ 吉原 達也



てするならば、横のものを縦にするワープロの版面転換と同種のものだから、根気と労力をかければ時期が来ればできあがるはずのものである。とはいえ、『母権制』は分野や時代にかかわらずありとあらゆるところから引用が取られてくる。その引用を、とにかくまず読み解くために、

九二年二月の上巻刊行以来、一年余りを経てようやく昨年四月、J・J・バハオーフェン（一八一五—一八八七年）の名著『母権制 古代世界の女性支配—その宗教と法に関する研究』（一八六一年）の翻訳（平田公夫・岡山大学と春山清純・神戸女子薬科大学両氏との共訳、白水社刊）を終えることができた。この間七年の月日が流れてしま

った。初版本は大型の一冊本で本文だけでも四二〇頁、各頁二欄に小さな活字がぎっしりと詰め込まれた事典のような本なのだが、それからひたすら謎を読み解き続けた生活が、現実であったのか夢であったのか、いまとなっては不思議な気がする。翻訳作業そのものは、多少乱暴な言い方を敢えて

膨大な資料を調べなければならなかったが、著者とともに（その程度に雲泥の差があることはいうまでもない）、引用の森のなかを逍遙する楽しみは、言葉に尽くせないものがある。『母権制』を、二〇世紀末の日本において翻訳することほどの意味があるのだろうか、果たして誰が読んでくれるのだろうか、こうした疑問は私たちの間でつねに話題になったことである。もちろん、『母権制』はいろいろな意味づけが可能であろう。バハオーフェンの思想を豊かな源泉とする地下水脈は、フロイト、ユング、クラージェス、トーマス・マン、ヘッセ、ベイヤミンのような綺羅星のごとき二〇世紀のドイツ語圏の著作家たちに達する。その意味で、一九世紀の思想的な結節点を体現するような思想家である。

師のように過去と現代、古代文献学と実用法学を結合した「現代ローマ法」を忌避して、J・J・グリムのな「始原」の探求に向かう。そのような意味で、バハオーフェンは、近代の法思想が切り捨ててきた観点から法学と歴史を捉え直し、法学を神話や文学と再統合しようとした思想家でもある。

そのような意味づけはともかく、バハオーフェン『母権制』には、事物や文献を読むふるえる心、とてつもない構想を抱いてしまった者の恍惚と苦役とでもいうのであろうか、研究者の幸せのすべてが込められている。画像学、神話学、法制史、文化史……分化しえない諸学問が、いかなる先入見にも濁らされずに、それまで誰も見えなかったものを指し示す営為を目の当たりにする幸運を与えてくれたことはたしかである。

昨年十一月、私たちの翻訳は、思いもかけず、日本翻訳家協会（佐藤亮一会長）主催の第三〇回日本翻訳文化賞を受賞することができた。いうまでもなくこれも、自由な研究を許して下さった法学部同僚諸氏をはじめ多くの方々のご支援の賜物であり、この場を借りてあらためてお礼を申し述べたい。

J・J・バハオーフェン著
『母権制』（上・下）

上巻 七八〇〇円
下巻 八八〇〇円
（白水社）

PROFILE

- ◆（よしはら・たつや）
- ◆一九五一年生
- ◆一九七四年京都大学大学院法学研究科博士課程基礎法学専攻単位修得
- ◆一九九〇年より現職
- ◆専攻 法制史・ローマ法

広生協ベストセラートップ10

- (一) アムリタ（上・下） 吉本ばなな 福武書店
- (二) 親指Pの修行時代（上・下） 松浦理英子 河出書房新社
- (三) 日本をダメにした九人の政治家 浜田幸一 講談社
- (四) 心の鏡 ダニエル・キイス 早川書房
- (五) IMIDAS 一九九四年版 集英社
- (六) マデイソン郡の橋 R・J・ウォラー 文藝春秋
- (七) マーフィの法則 A・ブロック アスキー
- (八) 時事問題の基礎知識 九四年版 ダイヤモンド社
- (九) 知恵蔵一九九四年版 朝日新聞社
- (十) バウ・プラス1 宝島編集部 宝島社（生協調べ）

投稿案内

本誌は広く教職員の投稿を募っています。表紙裏の写真、「フォーラム」欄、サークル紹介欄など、気軽に原稿を寄せて下さい。個人をひぼう中傷する原稿以外は、原則として採用します。大学批判の論文など大歓迎です。ただし、採否は広報委員会が決めます。

執筆者へのお願い

本誌は常時七千部、卒業・入学号は一万部を発行しており、読者は一般の学生を想定しております。漢字が多すぎる、「文章が分かりにくい」という意見が固定モニターから多数届いています。専門の学問や大学改革のことを分かりやすく書くのは難題と、十分承知していますが、専門用語をなるべく避けて執筆をお願いします。